

| | | |
|------|--|---|
| 経営理念 | 生徒会スローガン 学校教育目標 学校経営理念 研究主題 目指す生徒像 | 誇れる野市中をみんなの力で！ Level Up More しなやかな心を持ち、志高く自ら学び行動することができる生徒の育成 「地域とともにある学校」「全ての子どもたちが安心して豊かに生活し、学びのある学校」の実現に向け、チーム学校として一人一人の教員が質の高い教育を追究しようとする主体的に参画している学校を目指す。 #ActioNする15才～自分から動き出そう～ 「仲間と協力する」「自ら行動する」「課題を探究する」「地域に誇りを持つ」 |
|------|--|---|

| 中期経営目標 | 短期経営目標(評価項目) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善策等 |
|---|---|--|----|--|----|---|
| | | 達成状況 | 評価 | 考察 | 評価 | |
| 豊かな心 仲間や他者とつながり、自分自身の将来を考えることができる生徒を育成する | ①保健指導の充実による基本的な生活習慣の確立 ・学校評価アンケート「早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣が身につけている」肯定群85%以上 | 質問項目「早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣が身につけている」の肯定群は、生徒82.9%【82.5】、保護者69.1%【69.8】で昨年度とほぼ同じであり、目標には達していない。保健通信や掲示物を通してより良い生活リズムの確立に向けて発信を行ってきた。今後は再度、保健委員会を通して生徒が主体となる取組や保護者への情報発信を行っていく必要がある。 | B | 肯定群は生徒82.9%、保護者69.1%で前年度とほぼ同水準だが、目標の85%には届かずB判定となった。保健通信や掲示物を通じた発信により意識の維持は図られているが、就寝時刻の遅れなど家庭生活に踏み込んだ改善には至っていない。生徒の健康意識と家庭の認識の間に依然として温度差があることが課題である。 | B | 保健委員会を核とした生徒主体の啓発活動を強化し、自分たちの生活リズムを自ら見直す機会を創出する。また、学校保健委員会等の場を活用し、睡眠や朝食が学習・体力に与える影響について具体的なデータを提供する等、家庭との連携をより深める。SNSの利用ルール作りも含め、地域全体で生活習慣を支える。 |
| | ②発達支持的生徒指導の実施による、自尊感情、規範意識の醸成 ・学校評価アンケート「自分には良いところがあると思う」「学校の規則を守ることができる」肯定群85%以上 | 質問項目「自分には良いところがあると思う」の肯定群は、生徒79.7%【84.8】で目標には達していない。「学校の規則を守ることができる」の肯定群は、生徒95.4%【96.5%】、保護者91.0%【89.2%】で85%以上は達成している。また、教職員質問事項「個々の子どもの頑張りを見つけ、ほめている」の肯定群は96.3%であることから、今後も引き続き生徒指導の4つの視点を生かした授業づくり、学級経営に取り組んでいく必要がある。 | B | 「規則を守る」は目標を達成したが、「自分には良いところがある」は79.7%で目標の85%に届かなかった。教員の「生徒をほめる」肯定率は96.3%と極めて高いが、それが生徒自身の自己肯定感に十分に還元されていない。生徒指導の4つの視点に基づいた関わりは定着しているが、内面的な自信の醸成には時間を要している。 | B | 成功体験を実感させる場面を意図的に設定し、個々の頑張りを多角的に評価する体制を継続する。教員による称賛だけでなく、行事や日常の活動を通じて「生徒同士が認め合う」機会を増やす。自己肯定感の向上を重点目標に据え、自己理解を深めるワークショップや教育相談を充実させ、一人ひとりを大切に教育を推進する。 |
| | ③不登校の未然防止、不登校生徒への自立支援の手立ての充実 ・学校評価アンケート「学校の先生たちはよく話を聞いてくれる」肯定群80%以上 | 質問項目「学校や先生は、あなたたちの意見や希望を聞いてくれますか」の肯定群は、生徒92.2%【92.5】、保護者87.3%【84.3】で保護者は昨年度より4p上がっている。2学期末不登校傾向生徒(20日以上欠席)は、18人【18人】と同じである。本年度もSC、SSWについても、個別の支援会を行い、医療機関や森田村塾、保護者と連携しながら対応してきた。今後も未然防止、初期対応、自立支援の手立てを組織的に進めていく。 | A | 先生が「話を聞いてくれる」との生徒肯定群は92.2%と高く、保護者の評価も上昇してA判定となった。不登校傾向の生徒数は概ね横ばいだが、別室登校や教育相談を通じた組織的な対応が機能している。スクールカウンセラーやSSWとの連携により、生徒が安心して過ごせる居場所づくりが一定の成果を上げている。 | A | 登校という結果のみを求めるのではなく、社会的自立を見据えた個別の支援計画をさらに充実させる。初期段階での迅速な情報共有と組織的対応を徹底し、未然防止のためのアセスメントを強化する。また、関係機関や適応指導教室との連携を一層密にし、多様な学びの場を確保することで、生徒の不安解消に努めていく。 |
| | ④学級活動や生徒会活動の充実による、生徒の自治力の育成 ・学校評価アンケート「生活や学習に関わるルールを自分たちで決定している」「小さいトラブルは自分たちで解決できる」肯定群80%以上 | 質問項目「あなたのクラスは、生活や学習に関わるルールを自分たちで決定していますか」の肯定群は、生徒91.0%【91.3】、「あなたのクラスは、問題が起こった時に、みんなで話し合っ解決することができますか」の肯定群は、生徒87.5%【90.0】といずれも85%を超えている。引き続き、学級活動の中で、学級の課題解決に向けて話し合い活動を行い、自分たちの活動を自分たちで改善していく活動を充実させるとともに、生徒会活動を通じて生徒の自治力を育成する必要がある。 | B | 学級のルール決定や問題解決への参画意識は85%を超えており、目標を達成した。生徒会スローガンのもと、自分たちで学校を良くしようとする姿勢が見られ、学級単位での自治活動は順調に進んでいる。若年教員への指導体制も機能しており、生徒の主体的・対話的な活動を支える教員の支援スキルも向上している。 | A | 学級単位の活動で培った自治力を、生徒会活動を通じて学校全体の運営や地域貢献へと広げていく段階にある。生徒の意見を学校運営に反映させる場を工夫し、自分たちの行動で学校が変わる実感を持たせる。また、ICTを活用した意見集約など、現代的な手法を取り入れた合意形成のプロセスを経験させ、多様な市民性を育む。 |
| | ⑤キャリア教育の充実による、将来の夢や希望をもった生徒の育成 ・学校評価アンケート「目標や夢をもって学校生活を送っている」肯定的群80%以上 | 質問項目「目標や夢をもって学校生活を送っている」の肯定群は、生徒83.1%【84.0】、保護者71.1%【68.6】で目標には達していない。進路学習や職場体験学習、保育実習等の活動を実施するなかで、将来に対する見通しや希望を持たせることにつながるよう学びをつないできた。今後は効果的にキャリアパスポート等を活用し、夢や希望を持った生徒の育成につなげていきたい。 | B | 生徒の肯定群は83.1%で目標を達成したが、保護者は71.1%に留まり全体としてB判定。職場体験や進路学習を通じて将来への見通しを持つ生徒は増えてきているが、その学びの内容が家庭へ十分に伝わっていない可能性がある。夢や目標を持つことの重要性は理解されているものの、具体的な進路選択に結びつける力が求められる。 | B | キャリアパスポートを効果的に活用し、3年間の学びの軌跡を可視化することで、自身の成長を自覚させる取組を強化する。保護者に対してもキャリア教育の意図や活動内容を積極的に発信し、家庭での進路対話を促す。また、外部講師による講演や地域人材との交流を継続し、社会の多様な在り方に触れる機会を充実させる。 |
| | ⑥人権教育、道徳教育の推進による人権意識、道徳意識の向上 ・学校評価アンケート「友だちの良いところや頑張り、一人ひとりの違いを認め合っている」「どのような行動が適切かを考えて行動ができる」肯定群80%以上 | 質問項目「友だちの良いところや頑張り、一人ひとりの違いを認め合っている」の肯定群は、生徒91.4%【93.8】だが、「あなたは、まわりの人(家族、友達、先生)から認められていると思いますか」の肯定群は85.3%【87.5】と差がある。また「あなたは、学校生活でどのような行動が適切かを考えて行動することができていますか」の肯定群は、生徒96.1%【94.3】と1.8p増加している。学級・学年で人権発表を行ったほか、全校でも発表した。また、親子講演会では外国人(異文化)や生徒会活動でジェンダーについて考える場を設定するなど、生徒が身近な人権問題を「自分事」として捉えられるよう工夫した。 | A | 「人から認められている」と感じる生徒が85.3%に達し、他者を尊重する意識も91.4%と高くA判定。道徳科を中心にジェンダー平等や異文化理解を「自分事」として捉える授業実践が進んだ。生徒会による集会などでの呼びかけや啓発ポスターの取組も定着しており、多様性を認め合う学校風土が醸成されつつあることが数値に表れている。 | A | 道徳科を核とした授業改善をさらに推進し、多面的・多角的な視点から議論を深める場を設ける。SNS上での人権侵害など、現代的な課題に対しても生徒自らが考え、判断できる力を育成する。一人ひとりの存在が尊重される安心・安全な集団づくりを継続し、差別や偏見を許さない感性と実践力を組織的に育てていく。 |
| | ⑦いじめの予防、早期発見、いじめへの組織的に迅速な対応 ・学校評価アンケート「いじめは絶対に許さない」という強い意志を持っている」肯定的評価100% | 質問項目「いじめは絶対に許さない」という強い意志を持っている」の肯定群は、生徒96.6%【96.3】、教員97.7%である。各学級で話し合い、いじめなし宣言を全校で発表するなど自分たちで取り組んでいく雰囲気醸成している。学期ごとの2者面談やアンケート調査から早期発見、早期対応につなげている。また、毎週実施するいじめ防止対策委員会の中で生徒の状況を共有するとともに、対応や対策を協議し全体へ周知している。今後も学校いじめ防止基本方針に乗り取り、いじめの早期発見や日常の生徒理解に努め、適切な情報共有や対応に努めていく。 | B | 「いじめは絶対に許さない」という強い意志を持つ生徒が96.6%と極めて高く、強肯定群も約90%を維持。いじめなし宣言や週一回のいじめ対策委員会による情報共有が定着し、早期発見・早期対応の体制が確立されている。些細なトラブルも組織的に共有し、迅速に対応する姿勢が、生徒や保護者の安心感に繋がっている。 | B | 本年度改定した学校いじめ防止基本方針を全職員で再確認し、日常的な観察と丁寧な見取りを継続する。いじめアンケートの実施だけでなく、タブレット等を活用した日常的な相談体制の構築も検討する。また、いじめの傍観者にならないための学級づくりを推進し、生徒同士の絆を深めることで、集団による自浄作用を高める取組に注力する。 |

| 中期経営目標 | 短期経営目標(評価項目) | 学校関係者評価 | | 改善策等 | | |
|---------|---|---|----|---|----|--|
| | | 達成状況 | 評価 | | 考察 | 評価 |
| 確かな学力 | 目標を見据え、自ら進んで何事も最後までやり抜くことができる。志高く自ら学び、行動することができる生徒を育成する | ①授業改善と学力補完の取組の充実による、生徒の学力向上 ・各種学力調査の平均正答率が県レベルに達する | B | 学力向上の取組は大いに評価できる。全国・県学力学習状況調査の結果は概ね目標水準にあるが、教科ごとの学力差が顕著なため、ICTを活用した授業改善は進み、生徒の学習意欲が高まっているものの、基礎的・基本的な知識の定着を確認する手立てが不十分な場面がある。学力向上に向けたPDCAサイクルの確実な実行が引き続き求められている。 | B | 授業改善のためのPDCAサイクルを中期のスパンで計画的に回していく。年度当初について、何を検証するのか系統的な年間計画を立て授業改善に取り組んでいく。生徒が自律的に学ぶことができる授業づくりを教科横断的な視点で取り組むことと、授業とリンクさせた家庭学習のしくみを構築することで、学力向上につなげていきたい。 |
| | | ②1人1台端末をクラウド活用し、生徒が自律的に学ぶ授業づくりの実践 ・教員アンケート「授業におけるタブレットの活用について、実践している」が100% | B | 教員のICT活用率は96.8%と非常に高く、クラウド活用による自律的な授業スタイルへの転換が大きく進んだ。生徒がタブレットを文房具として使いこなし、情報の収集・整理・共有をスムーズに行う姿が見られる。授業観が大きく変わり先生方も大変だと思いが、生徒が自律的に学ぶ授業スタイルへの授業改善が大きく進んでいる。今後さらに生徒が自律的に学ぶ授業スタイルへの授業改善を進めていきたい。 | A | 今後は活用の「量」から「質」を高める段階へ移行する。生成AIの適切な利用ルール作成や、教科横断的なプロジェクト学習でのICT活用を模索する。今後も1人1台端末をクラウド活用して生徒が自律的に学ぶ授業スタイルへの授業改善に向けて教科横断的に取り組んでいく。教科主任会で教科横断的な重点取組の検証、改善を行い、教科会で教科としての重点取組の検証、改善を行っていく。 |
| | | ③重点的に育成したい資質・能力である自律力、プレゼン力の育成 ・授業評価アンケート「課題の解決に向けて、自分から進んで取り組んでいる」「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」肯定群50%以上 | B | 指標である、授業評価アンケート「課題の解決に向けて、自分から進んで取り組んでいる」「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」では、それぞれ肯定群が89.5%、65.3%と目標値に達した。自律力は育成できていると実感しているが、プレゼン力については十分育成できていないと感じている。本年度は学習発表会で有志によるプレゼン大会を開催した。生徒のプレゼンへの意欲は向上しているため、授業や授業外で生徒がプレゼンする機会を設定し、プレゼン力の育成を目指していきたい。 | A | 各教科や総合的な学習の時間の中で、スライド構成や話し方の基本を指導する機会を意図的に設定する。少人数グループでの発表から始め、段階的に全校の前で表現する場を作る。また、相互評価を取り入れ、他者の良い表現を学ぶ合う活動を推進する。デジタルツールを効果的に使った表現力の育成に組織的に取り組む。 |
| | | ④1人1台端末を活用した家庭学習の充実 ・生徒アンケート「平日の家庭学習時間1時間以上」80パーセント以上 ・生徒アンケート「デジタルドリルは、自分の力を伸ばすことに役立つ」肯定評価80% | C | 生徒アンケート「平日の書いて学習時間1時間以上」「デジタルドリルは、自分の力を伸ばすことに役立つ」の肯定的評価が、それぞれ64.3%、73.8%と目標には達しなかった。定期的にデジタルドリルを活用した家庭学習を取り入れているが、それが生徒の家庭学習の充実にも十分につながらなかったと感じている。来年度は授業の予習、復習につながるよう家庭学習の方法を再検討し、家庭学習の充実につなげていきたい。 | C | 家庭学習を「やらされるもの」から「自ら取り組むもの」へ変えるため、予習・復習の具体的な方法を示した手引きを改訂し明示していく。AIドリル等の活用方法を細かく把握し、称賛や励ましの声をかけることで意欲を支える。保護者に対し、家庭での学習環境整備の重要性を周知し、学校と家庭が連携して学習習慣を確立させる。 |
| | | ⑤複数教員による教科指導や少人数学習の効果的な活用や、個に応じた支援の充実 ・学校評価アンケート「授業がよくわかる」肯定群85%以上 | B | 授業理解に関わる質問項目の肯定群は、生徒78.5%[85.1]保護者53.5%[45.7]教員92.6%[65.5]であった。生徒、保護者、教員で、大きなばらつきがある。教員の正確な見取りや加配教員・学習支援員による個に応じた支援を充実させる必要がある。 | B | 加配教員や学習支援員が配慮が必要な生徒に個別に声をかけたり、デジタルドリルなどのツールの活用により、個に応じた支援は向上してきていると考えられる。教員の自己評価と生徒・保護者の実感のズレを解消するための、きめ細かな指導体制の再構築が必要。 |
| 信頼される学校 | 保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する | ①野市中学校から不祥事を出さない ・不祥事防止委員会を立ち上げる。 ・月1回以上、不祥事防止の教員研修を行う。 | B | 月1回の不祥事防止委員会を開催し、コンプライアンス意識の醸成を徹底した。服務規律や個人情報管理については、事例を「自分事」として捉える研修を積み重ねた結果、組織として不祥事を起こさない組織風土を構築しているところが評価できる。また風通しの良い職場づくりが進み、高い意識の下で、不祥事を許さない関係性が構築されている点も評価できる。 | B | 不祥事防止委員会の定期的な開催は継続し、研修内容を自分事となるよう検討していく。また担当者を輪番にするなど様々な視点から不祥事防止の意識を醸成していく。また意見や批判が自由に報告できる雰囲気となるよう管理職を中心に継続して風通しのよい職場づくりに努めていく。 |
| | | ②地域学校協働本部の活動の活性化 ・放課後学習支援、環境整備の取組を行う。 ・防災に関して、地域と協働した取組を行う。 | B | 放課後学習支援は、12月末現在15名(1年5名、2年6名、3年4名)の参加者が計画通り実施している。支援員の先生方が丁寧に指導してくれている。12月に学校周辺環境整備を人権擁護委員と連携して実施することができた。防災学習に関しては、計画的に避難訓練を実施し、複合災害を想定するなど命を守る行動への意識は高まっているものの、地域と連携した取組は出来ていない。 | B | 放課後学習支援や環境整備は計画通り進んでいるが、防災教育に関しては避難訓練の実施。学習支援員の確保についても、地域住民へ積極的に働きかけ、多世代交流の場として放課後学習を充実させる。地域と地域人材を巻き込みながら実施できる取組を企画する。 |
| | | ③保護者や地域へ学校の情報の積極的な発信 ・学校評価アンケート「学校は、家庭への連絡・情報提供を積極的にしていると思いますか」肯定群80% | B | 「学校は保護者や地域へ情報提供を積極的にしている」についての質問項目の肯定群は保護者86.1%[84.3]、教員100%[92.9]となり、目標値は達成した。「すぐる」を活用して学校通信を電子化したり、学級担任が積極的に学級通信を発行するなど、生徒の様子を伝えようと努めている。 | B | 学級通信や学校通信を定期的に発行し、学校の取組を積極的に発信している。今後も情報発信を適宜行い、保護者や地域との信頼関係を深めて欲しい。 |
| | | ④学校評価の実施 学校評価アンケート「学校は、子ども達、保護者、地域の意見を聞いてその声を活かしている」と思いますか」肯定群80% | B | 質問項目「学校は、子ども達、保護者、地域の意見を聞いてその声を活かしている」の肯定群は、保護者86.7%[77.9]、教員96.3%[82.1]で昨年度に比べて高くなった。学校行事後に保護者にアンケートを実施し、得られた意見を次年度にいかしていく。 | B | アンケート結果の肯定的な回答が増加傾向にあることから、学校運営の改善が着実に進んでいると評価できる。 |
| | | ⑤交通指導、安全教育の充実による、安心・安全な学校づくり ・学校安全計画の周知、見直しを行う。 ・計画的に交通安全教室、避難訓練を行う。 | B | 学校安全計画を踏まえ、教職員と共有を図りながら、危機管理に努めてきた。学校危機管理マニュアルも担当者を中心に地域からの教育活動の継続や心のケアについて見直した。自転車乗り方については、地域の方から注意を受けるなど課題となっており、避難訓練や救急教訓講習については予定通り行い、2年生では避難所運営ゲームHUGを体験するなど学習を進めている。 | B | 危機管理マニュアルの整備や訓練は適切に行われているが、自転車の乗車マナーについて地域からの指摘があり、交通安全意識の定着に課題があるためB判定。施設点検等は計画的に実施されているが、登下校時の安全確保を含め、生徒一人ひとりの「自分の命を守る」という自覚をさらに促す必要がある。 |

評価基準
A:十分満足 (80%以上)
C:もう少し努力すべき(60%~40%)

B:おおむね満足 (80%~60%)
D:大いに努力が必要 (40%以下)